Ram Ben-Shalom（ラム・ベン・シャローム）教授講演会
The Way to the ‘Third Way’ of Conversion: Reconsidering the Waves of Jewish Conversions to Christianity in 15th-Century Spain（改宗の「第三の道」への道：15 世紀スペインにおけるユダヤ人のキリスト教改宗のうねりについて再考する）

コメント：志田雅宏
Secret Missions of Apostles’ Conversions: Alternative and Counter Narratives in the Medieval Jewish Mythological Tradition（使徒たちの改宗の秘密の使命：中世ユダヤ教の神話的伝統における代替的・対抗的な物語）

2024 年 11 月 30 日（金）14：30－17：00
法文 1 号館 217 教室

ヘブライ大学（イスラエル）のラム・ベン・シャローム教授に、15 世紀のスペイン・ユダヤ人社会におけるキリスト教への改宗の問題についての講演をしていただきました。

ベン・シャローム先生は中世の南フランスとスペインのユダヤ史をご専門とされ、これらの地域におけるユダヤ人社会とキリスト教文化とのさまざまな関係について、数多くの論文や研究書を著しておられます。私も 2011－13 年のヘブライ大学留学時にベン・シャローム先生の演習に参加し、大変お世話になりました。その後も先生との交流が続き、今回サバティカルの期間に 2 か月間、本学に外国人研究員として招へいすることができました。そして、研究室での討議や共同研究の計画についての検討などをへて、滞在の最後にこの講演会を開催するにいたりました。

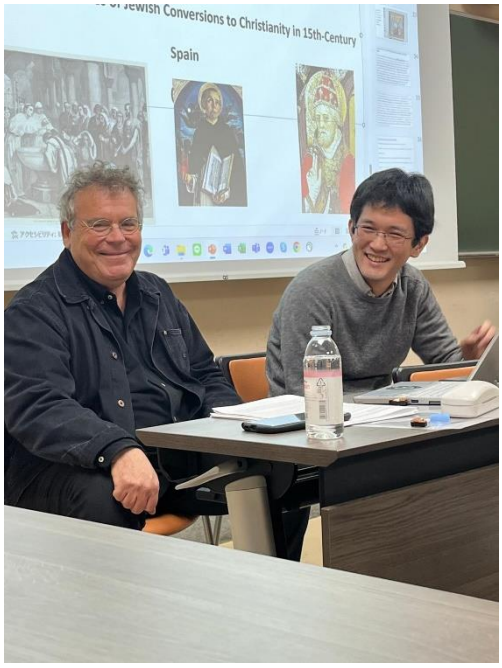
講演では、イベリア半島全体に拡大した 1391 年のユダヤ人迫害の後、15 世紀のスペイン・ユダヤ人社会の最大の問題となったキリスト教への数多くの強制改宗者（ha-anusim）について、同時代のユダヤ知識人たちがどのような主張や議論を展開したかが扱われました。ハスダイ・クレスカス（Hasdai Crescas）やプロファイト・ドゥラン（Profayt Duran）らは、こうした強制改宗者たちを「ユダヤ人」と「異教徒」というユダヤ法の二項対立的なカテゴリーに分類するのではなく、「キリスト教徒の社会のなかで生活するユダヤ人」として規定しました。この着想は革新的なものであり、西欧のユダヤ人たちが直面したかつてない問題のなかで、改宗者たちの生き方や信仰に意味を与えようとする試みであったといえます。従来であれば、「ユダヤ哲学」や「論争文学」に分類されるクレスカスやドゥランの著作を、「改宗者のためのカテキズム」として読むという先生の新たな読み方も大変示唆的でした。

その後、コメントとして、15 世紀の強制改宗の問題に対する別のアプローチとして、ベン・シャローム先生が「神話的伝統」（the mythological tradition）と名づける民間伝承の事例を私の方で紹介しました。具体的には、パウロとペトロにかんする中世ユダヤ教世界の民間

伝承を取り上げ、改宗者をめぐる言説がさまざまな層の語りで構成されていたことを指摘しました。

質疑応答ではユダヤ研究や西洋史の学生や研究者のみなさまから多数の質問が寄せられ、活発な議論がおこなわれました。

ベン・シャローム先生は初めての来日でしたが、日本での滞在を存分に楽しまれ、また講演会でも国内の研究者との議論ができたことをとても喜んでおられました。



文責：志田雅宏